ディボーション質問表

12日（月）ヨハネの黙示録　15：1～8

黙示録全体の主題は神の裁き、そして神の怒りです。 反キリストの最後、すなわちハルマゲドンの戦い（世界最終戦争）の直前にこれら七つの金の鉢の裁きがなされます。 この時には神に従ったために、獣に殺された者たちはほとんど神の元に引き上げられ、この裁きを静観します。 獣とその残虐な行為への報いは、神から来ます。

1．神の弟子たちが立て琴を手にして歌います。 あなたも何か音の出る物（ラジカセ、MP3等々もOK）を使って神を賛美してみます。 神をたたえるほど、私たちの心はより健康になっていくことを実感してみましょう。
2．金の鉢のさばきが始まると誰も聖所に入り、とりなすことはできません。 とりなしの祈りのできること自体、今の時代の特権です。 あなたはこの特権をどのように使っていますか？　吟味しましょう。

13日（火）ヨハネの黙示録　16：1～11

私たちの言葉でいうと最初の五つの鉢の裁きは、「疫病と異常気象」に言い換える事ができます。 それぞれの災害をどのようなものと想像するかは個人にまかせますが、現在新しい病気が発見されたり、異常気象のデータがあがってきたりするのもこれらの予兆と考えられます。 しかし、この時代の特徴は人々が「かたくなになり、悔い改めない」ことにあります。 「高慢」こそ人の最大の問題であり、「神がいるなら見せてみろ。」と言う人は残念ながら神のしるしを見ても信じることができません。 そのような人たちのためには神を「証明？」するよりも聖霊の働きを願って祈ることが重要でしょう。

1．出エジプトにも同じような裁きが出てきます。 出エジプト記７～１０章辺りを思い出してみましょう。
2．私たちも困難にあった時、心をかたくなにし、神に対していじけてしまうことがないでしょうか？　そのときのことを思い出し、どのようにそこから脱したか思い返してみましょう。 今いじけている人は「神様、私はあなたに対していじけています。」と正直に認めてみましょう。

14日（水）ヨハネの黙示録　16：12～21

ここでは世界最終戦争の始まりと、神による終結が出てきます。 かえるは悪霊を象徴しますが、今よりも悪の惑わしが強くなり、遂には人々が神に対して戦うためにメギドの丘（ハルマゲドン）に集結します。 大きな都エルサレムは激しい地震によって三つに裂かれ、大規模な地殻変動が起き、巨大な雹が人々を襲います。

1．「私は盗人のように来る。 目をさまして・・・」という箇所は、今の時代の私たちにとっても希望であり、戒めです。 霊的な目がはっきり見えるように神に願いましょう。
2．これらの預言はわたしたちが慎み深く生活するために書かれました。 もう一度自分の生活を見直し、優先順位を確認しましょう。

15日（木）ヨハネの黙示録　17：1～6

ここでもう一度確認できることは、神に反対する獣が存在し、その獣を宗教的に支持する女がいるということです。 前後の聖書箇所からこの獣は一人の「人間」で、「今まで世界を支配してきた、そしてこれからする７つの世界国家の性質」をもち、「世界の終わりにできる10ヶ国からなる連合国」のリーダーです。 大バビロンと呼ばれる女はこの獣の政治力に乗ってキリスト者を圧迫する何らかの「宗教的団体」であり、経済的にも豊かになると思われます。

1．大バビロンは淫婦です。 神を礼拝するように見せかけながら、実は獣（人間）を拝ませます。 私達にもどこか人間崇拝してしまっている気持ちはないでしょうか？
2．世界はこの女の「不品行のぶどう酒」に酔います。 しかし、聖書は「御霊」に酔うことをすすめています（エペソ５：18～21）。 この二つの「酔い方」はどのように違うでしょうか?

16日（金）ヨハネの黙示録　17：7～21

この黙示録が書かれるまで地中海沿岸に出て来た世界国家は「エジプト」「アッシリヤ」「新バビロニア」「メド・ペルシャ」「ギリシャ」の５つ、書かれた頃には「ローマ帝国」がありました。 世の終わりにはこれらの国々の性質をすべて持つ「７つ目の大帝国」があらわれますが、それは10の諸国連合からなり、反キリスト（獣）がそのリーダーです（ダニエル２章参照）。 獣たちは子羊（キリスト）に戦いをいどみますが敗れ、自分たちを支えてきた宗教指導者である女と仲違いをおこし、最後には裏切ります。

1．上に書いた過去６つの帝国はすべて滅んでいます。 すべて豊かになり、高慢になった時点で急速に衰退し始めました。 今の日本はどうでしょう。 とりなしましょう。
2．人間の合意だけに支えられた集まりは、もろいものです。 そのような例が何かありますか？　またそうならないためには何が必要でしょうか？

17日（土）ヨハネの黙示録　18：1～11

創世記 11 章のバベルの塔を「再建する」ことがこの女の目標でした。 彼女は霊に関わる良い言葉を並べ、人々の心をつかみますが、その実状は悪霊どもの巣窟をつくることにありました。 11 節を読むとこの女の宗教が経済と深く関わっていたことがわかります。 経済的に豊かになるためなら、心は犠牲にしてもよい、という風潮がうかがわれます。

1．金儲けに熱心になりすぎると心がうばわれます。 そんな経験はありませんか？
2．キリストはお金をどのように使ったと思いますか？　あなたの生活にも何か適用してみましょう。